

《原著》

## 待機的冠動脈インターベンション患者の QOLと生活習慣の関連

森脇 佳美<sup>1)</sup>, 竹松 百合子<sup>1)</sup>, 中神 友子<sup>1)</sup>, 長谷部 ゆかり<sup>2)</sup>, 小寺 直美<sup>3)</sup>,  
山田 智恵<sup>4)</sup>, 杉本 郁子<sup>5)</sup>, 篠田 耕造<sup>5)</sup>, 古林 晃<sup>5)</sup>, 加藤 小代子<sup>5)</sup>, 柴山 健三<sup>6)</sup>

<sup>1)</sup> 椋山女学園大学看護学部, <sup>2)</sup> 聖泉大学看護学部看護学科, <sup>3)</sup> 四日市看護医療大学,  
<sup>4)</sup> 藤田保健衛生大学医療科学部看護学科, <sup>5)</sup> 岐阜ハートセンター看護部, <sup>6)</sup> 愛知医科大学看護学部

### 要 旨

【目的】 待機的冠動脈インターベンション (PCI) 患者のPCI後のQOLと生活習慣間の関連を明らかにすることを目的とした。【方法】 対象患者は、PCI後12から24か月経過した虚血性心疾患患者 (PCI患者) 245名とした。QOL測定はSF-36、生活習慣測定はLPC生活習慣検査 (LPC) を使用し、郵送法にて調査した。【結果】 SF-36サマリースコアのPCSはLPCの運動の実施尺度、情緒不安定尺度、外向性尺度に有意な正の相関があった。SF-36サマリースコアのMCSは食事の規則性尺度、運動の実施尺度、情緒不安定尺度、外向性尺度に有意な正の相関があった。【結論】 本研究対象患者は、生活習慣のうち、食事の規則性、運動の実施、情緒不安定、および外向性とQOL間に関連のあることが示唆された。

キーワード：虚血性心疾患，待機的経皮的冠動脈インターベンション，生活の質，SF-36，生活習慣